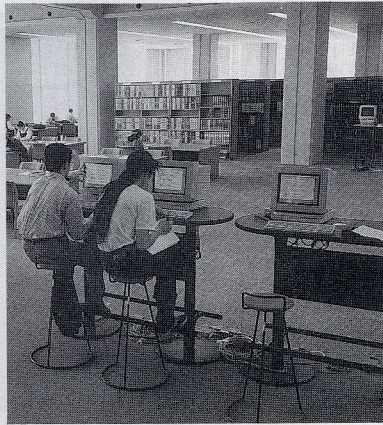


附属図書館情報サービス課

情報の発信基地  
としての図書館  
—情報も、いつでも、  
どこでも、誰にでも—

朝妻 三代治



はじめて

中央図書館、西図書館の移転・竣工記念式典が六月十日に行われた。中央図書館、東図書館、西図書館、医学分館、東千田分室と勢揃いした。「いよいよ移転完了。今後のサービスの改善は如何に？」そんな問いかけをされているような式典だった。  
長年にわたる移転を終えた。といっても、中央図書館を使い勝手の良い図書館にするには、まだ数年の残務整理の日々が必要ではあるが。

移転完了とともに、組織の一元化も図られた。その過程で大幅な職員減を余儀なくされた。サービスの向上を求められる図書館としては、大変な痛みを負った旅立ちとなった。今後サービスの改善を進めていく上で大きな問題点になるであろうが、あまりこの点に触れると、今回の与えられたテーマのスペースがなくなるので「情報」に関わる話に移ろう。

電算化の現状

情報の発信基地として、図書館の役割がさまざまな角度から言われ始めて数年経つ。日本の大学図書館の電算化では最先端を走っていた本学の附属図書館も、移転への対応に追われ、かなりの大学に追い越されてしまった。これは、この間の電算機器の驚くべき発展と、大規模大学ゆえデータ量が多く、システムの小回りが利かなかったことにも原因がある。今年の三月にシステムの更新をしたが、「UNIX」の導入には至らなかった。「UNIX」で、トータルシステムとして大規模図書館に対応しているところ(実績)がないという理由からだった。タイミングを失ったのが残念でならない。

しかし、使いにくいという現在のOPAC (Online Public Access Catalog) オンライン目録検索システムは、九月からUNIX版になり、多少使い勝手がよくなる。利用案内に力を入れねばならない。

情報発信基地を目指して

多くの大学図書館で、CD-ROMサーバ

を使って、学内LAN (Local Area Network) 学内情報ネットワーク) による情報提供サービスが行われている。研究室にいなから、時間や課金の制約も受けず情報を収集できるこのサービスは大きな魅力がある。スタンドアロン型のサービスは広島大学でも行っているが、場所、時間等で制限された現状は使いやすさとは言えない。

最近、大学図書館のホームページが幾つか出現している。広島大学附属図書館でも、職員間でワーキンググループを作り、WWW (World Wide Web) による情報提供サービスシステムの検討を開始した。情報発信基地として現時点で想定できるサービスを、私見を交えながら考えてみた。

HINET (Hiroshima university Information Network system) 広島大学情報ネットワークシステム) を経由して図書館の利用者用端末や、学内の研究室等の端末から検索できるホームページを作成する。データベースとしては、当面、外国雑誌目次情報、医学・教育学文献情報等が考えられる。これらの情報検索は、図書館所蔵情報とリンクするのが望ましい。利用者は検索の結果、学内各図書館で所蔵する資料は直接図書館に向くが、学内にない場合は、複写依頼を画面上でできるようにしたい。一応はデリバリーシステムの第一歩になる。

MOSAIC (イリノイ大学のNCSA (National Center for Supercomputing Applications) が開発したアプリケーションソフト) を使った検索システムはすこぶる使い勝手が良い。誰もが使える。画面を見れば、次は何をしたらよいか理解できる。そんなシ

ステムの構築が望まれている。技術的に今それができる条件下にある。学内の合意を得られれば、あとはお金の工面と実行である。情報の発信基地として早急に具体化できればと考えている。

(注) CD-ROM (compact disc read only memory) Ⅱコンピュータ用のデジタルデータを記録できる光学式ディスクで、六〇〇メガバイトとフロッピーディスクの数十倍の記憶容量をもち、かつ安価で大量複製が可能。最近話題となっているものに、アダルト向けソフト、CD-ROMマガジン、CDビデオ、カーナビゲーションソフト、新聞電子縮刷版、写真データベースなどがある。

プロフィール

- ◇(あざづま・みよじ)
- ◇附属図書館情報サービス課長
- ◇昭和二十一年生まれ
- ◇東京大学、長岡技術科学大学を経て、本年四月から現職
- ◇趣味はスポーツ全般(特にバレーボール)、釣り等

